

日本公共政策学会 会報 No.52 2016年4月

PPSAJ Newsletter Public Policy Studies Association, Japan

【目次】

1. 2016年度理事候補者選考に関するお知らせ
2. 「公共政策フォーラム 2016 in 津南」の開催について
3. 2016年度研究大会の案内
4. 2016年度研究大会のプログラムについて
5. 理事会の記録(第104回)
6. 関西支部大会自由論題報告、論文構想検討会報告者募集のお知らせ
7. 新入会員の紹介
8. 理事会開催のお知らせ

1. 2016年度理事候補者選考に関するお知らせ

理事候補者推薦委員会
委員長 縣 公一郎

次期理事の選出は、この6月の総会において行われますが、2003年度総会（2003年6月14日に開催）で承認されました「理事選任に関する総会申し合わせ」に従いまして、総会開催前にあらかじめ会員に対して、総会で推薦する予定の理事候補者のリストを通知することになっております。委員会として、理事選出規程に基づいて理事候補者の推薦のための作業を終え、理事候補者の一覧を別紙で同封いたしました。ご意見等がございましたら、下記の理事候補者推薦委員長あてに4月30日までに文書またはメールにてご連絡くださいますようお願い申し上げます。

〒169-8050（専用郵便番号）
早稲田大学政治経済学術院
縣 公一郎
E-mail : agata@waseda.jp

2. 「公共政策フォーラム 2016 in 津南」の開催について

2016年度公共政策フォーラム委員長 小森 岳史

2016年度の公共政策フォーラムは、「みんな雪のおかげ」というテーマで、9月24日(土)・25日(日)の2日間、新潟県津南町を会場として開催いたします。24日は学生コンペと交流会を、また、25日はコンペの優秀グループによる発表、体験型のイベントを予定しています。

学生を対象とした政策コンペにつきましては、下記の要領で開催しますので、会員の皆様のゼミ等のご指導に活用いただき、多数のご応募をお待ちしています。

なお、25日の体験型イベントにつきましては、詳細が決まりましたら学会ホームページで公表するとともに会報でお知らせする予定です。

◆学生コンペの概要

1 テーマ「みんな雪のおかげ」

津南町の人口は、昭和30年の21,909人をピークに、その後は減少を続けており平成22年の国勢調査では10,881人となっています。また、年齢3区分別人口割合では、年少人口が11%、生産年齢人口割合が52%、老年人口割合が37%であり超高齢社会となっています。さらに国立社会保障人口問題研究所の将来推計では、平成52年の当町の人口は6,670人まで減少すると推計され、消滅可能性都市の一つに挙げられました。

この人口減少・人口流出・少子高齢化は、当町の基幹産業である農業にも影響を与えています。当町の農業は稲作(魚沼産コシヒカリ)と畑作並びに畜産との複合経営が中心ですが、後継者不足が顕著であり、担い手の確保・育成が課題となっています。

また、人口減少・人口流出の要因の一つとして考えられるものに「雪」が挙げられます。津南町は日本有数の豪雪地帯であり、最大積雪量は平地でも3mを超え、山間地は4～5mになります。降雪期間は交通網を確保するため、大型除雪機械による除雪作業が明け方から行われています。地域住民も日々生活圏の除雪作業に追われ、住民にとって雪は「やっかいもの」という意識が根強くあります。しかしながら、この地域で生活していくには、「雪」は切っても切れない生活環境の一部であると共に「雪」によって古くから築かれた歴史・文化・知恵があります。

観光分野では、ニュー・グリーンピア津南を中心にスキーやスノーボード、スノーシューなどのウィンタースポーツが盛んです。農業分野では、雪下にんじんの栽培やにんじんジュースの販売がされており、野菜を保存する雪室の活用も研究が進んでいます。その他の産業分野では、雪冷熱を活用した新潟県のデータセンターの試験誘致が決まり、平成28年度に事業化される予定です。雇用面では、町道を中心とした除雪作業員の雇用が確保されています。また当町は、平成26年12月に長野県栄村にまたがる地域の「苗場山麓ジオパーク」が日本ジオパーク認定を受け、今後、農業・観光・教育など様々な面での活用が期待されています。このような「雪」の利活用は現在なされていますが、今後さらに発展的な利活用が求められています。

降雪地域において、「雪」という自然資源を利活用する政策を創り出すことで、「雪＝デメリット」から「雪＝メリット」へ発想転換し、『みんな雪のおかげ』で人口減少・人口流出などの課題解決や、農業・観光振興、雇用の創出など様々な施策を見出す可能性を秘めていると考えます。

今回の学生による政策コンペにおいては、「雪」を利活用した農業・観光振興、人口増加(交流人口

拡大)、雇用の創出、少子高齢化社会への対応などについて、学生諸君の様々な視点からの現状分析と事例研究等に基づく、津南町をはじめとした地方の降雪地域への政策提言を望むものです。

【研究テーマ例】

- ジオパークを活用した新たな政策
- 人口増加（交流人口拡大）に向けた政策 ～「行きたいまち」「住みたいまち」～
- 中山間地域の少子高齢化社会への対策
- 雪の魅力を活かした中山間地域活性化対策（農業・観光振興、雇用の創出等）

【参考 1】津南町の計画等

- 津南町総合振興計画 基本構想・前期基本計画
(<http://www.town.tsunan.niigata.jp/soshiki/somu/kihonkoso.html>)
※現在、第 5 次後期基本計画を策定中（4 月以降に町ホームページに掲載予定）
- 津南町まち・ひと・しごと創生総合戦略
※現在、策定中（3 月末までに町ホームページ掲載予定）
- 津南町人口ビジョン
※現在、策定中（3 月末に町ホームページ掲載予定）

【参考 2】広報誌・情報等

- 津南町広報誌「広報つなん」(<http://www.town.tsunan.niigata.jp/site/koho/>)
- 津南町議会だより (<http://www.town.tsunan.niigata.jp/site/gikai/list40-164.html>)
- 町勢要覧 (<http://www.town.tsunan.niigata.jp/soshiki/somu/yoran.html>)
- 降雪積雪情報 (<http://www.town.tsunan.niigata.jp/soshiki/kensetsu/yuki-joho.html>)

【参考 3】町内公共施設

- 津南町公民館 (<http://www.town.tsunan.niigata.jp/site/kyoiku/kominkan.html>)
- 津南町公民館図書室 (<http://www.town.tsunan.niigata.jp/site/kyoiku/toshoshitsu.html>)
- 津南町総合センター・中津川運動公園
(<http://www.town.tsunan.niigata.jp/site/kyoiku/sogocenter-riyo.html>)
- 農と縄文の体験実習館なじよもん (http://www.najomon.com/page_top/)
- 津南町衛生施設組合 (<http://www.town.tsunan.niigata.jp/soshiki/chiikieisei/>)
- 津南病院 (<http://www.town.tsunan.niigata.jp/site/hospital/>)
- 津南町観光協会 (http://tsunan.info/page_top/top.php)

【参考 4】出版物等資料

津南町史、津南学 ※フォーラム事務局へお問い合わせください。

【参考 5】地元新聞社

- 妻有新聞社 (<http://www.t-shinbun.com/>)
- 新潟日報社 (<http://www.niigata-nippo.co.jp/>)

【参考 6】検索エンジン例

津南町、(越後) 妻有、中魚沼、秋山郷、信濃川、中津川、千曲川、清津川、苗場山、苗場山麓ジオパーク、スカイランタン、ひまわり畑、竜ヶ窪、なじよもん、雪下にんじん、雪下にんじんジュース、津南町認証米、津南の天然水、雪国観光圏

2 会場

ニュー・グリーンピア津南 (<http://www.new-greenpia.com/>)

3 コンペ実施日

9月24日(土)(開始時間は、応募チーム数を勘案して決めます。)

優秀賞受賞チームによる発表を、9月25日(日)に行います。(2日目の内容により変更有り)

4 コンペのリハーサル

9月23日(金)午前10時～午後9時の間、本番会場でコンペのリハーサルができます。

ただし、リハーサルを希望するチームは前泊すること(2泊3日)が条件になります。

○リハーサルスケジュールは、各チームの希望を基に事務局で割り振ります。

○リハーサル時間は、希望チーム数によりますが、概ね1チーム30分程度とします。

○リハーサル希望チームは、別紙1「学生コンペ参加申込書」により事務局へお申し込みください。

5 応募方法など

(1) 応募

コンペの応募は、1ゼミ1チームとします。

この政策コンペは、学部生を対象としたものです。(大学院生は参加不可)

参加を希望されるチームは、別紙1「学生コンペ参加申込書」(学会ホームページからファイルをダウンロード)を事務局へ提出ください。応募締切は6月16日(木)17:00(必着)です。

※E-mailで応募の場合は、件名に「公共政策フォーラム参加申込み」と表記してください。

(2) 応募後の提出資料

応募以後、以下を電子メールにより提出していただく予定ですので準備をお願いします。

①要約(小論文)の提出:9月上旬頃までに1万字程度(図表含む)の小論文を提出

②当日発表資料の提出:パワーポイント資料を開催の直前に提出

(3) 応募ゼミが多数の場合は、カテゴリーなどを参考に審査を分割して行う場合がありますので、あらかじめご了承ください。

6 宿泊等について

宿泊先:原則、ニュー・グリーンピア津南への宿泊とします。

申込方法:別紙2「宿泊等申込書」(学会ホームページからファイルをダウンロード)により、ニュー・グリーンピア津南へお申し込みください。

宿泊料金:①2泊3日(9/23~25):19,000円(諸税込)※23日夕食、24日朝食・交流会、25日朝食

②1泊2日(9/24~25):10,000円(諸税込)※24日交流会、25日朝食

弁当注文:24日(土)の昼食は、希望者に限り弁当を用意します。 ※1個500円(諸税込)

弁当を希望する場合は、別紙2「宿泊等申込書」により、ニュー・グリーンピア津南へお申し込みください。

料金支払:宿泊料金・弁当代は、ホテルチェックイン時に各チームでまとめてお支払いください。

7 交通アクセスについて

①東京方面⇄ホテル直行バス

時間：東京方面⇒ホテル…蒲田 7:30 発⇒新宿 8:30 発⇒練馬 9:00 発⇒ホテル 12:30 着

※蒲田：JR 蒲田駅東口大通り沿い三井住友銀行前発

新宿：都庁ふれあい通り発

練馬：練馬郵便局前発

ホテル⇒東京方面…ホテル 14:00 発⇒練馬 17:45 着⇒新宿 18:15 着⇒蒲田 19:15 着

※練馬：練馬区役所前着

新宿：JR 新宿駅西口付近着

蒲田：JR 蒲田駅東口付近着

料金：往復 5,000 円／1 人（諸税込）

申込：別紙 2「宿泊等申込書」により、ニュー・グリーンピア津南へお申し込みください。

②越後湯沢駅⇄ホテル直行バス

時間：越後湯沢駅⇒ホテル・・・10:00 発／12:00 発／14:40 発

ホテル⇒越後湯沢駅・・・10:30 発／13:00 発／15:00 発

※越後湯沢駅発着：東口正面ロータリー

※東京⇄越後湯沢駅の上越新幹線は各自で手配してください。

料金：無料

申込：別紙 2「宿泊等申込書」により、ニュー・グリーンピア津南へお申し込みください。

③お車でお越しの場合

【東京方面から】関越自動車道利用で、塩沢石打 I.C 下車、国道 353・117 号経由で 40 分

【新潟方面から】関越自動車道利用で、越後川口 I.C 下車、国道 117 号経由で 1 時間

【長野方面から】上信越自動車道利用で、豊田飯山 I.C 下車、国道 117 号経由で 1 時間 30 分

8 お問い合わせ・お申し込み

◎コンペのテーマに関するお問い合わせ先・お申し込み先

【公共政策フォーラム 2016 in 津南 事務局】

津南町総務課企画財政班 担当：小林義明

〒949-8292 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡戊 585 番地

TEL：025-765-3112 FAX：025-765-4625

E-mail：kobayashi.yoshiaki@town.tsunan.niigata.jp

◎宿泊・交通アクセスに関するお問い合わせ先・お申し込み先

【ニュー・グリーンピア津南】(<http://www.new-greenpia.com/>)

営業部営業課 担当：高橋真人

〒949-8313 新潟県中魚沼郡津南町大字秋成 12300 番地

TEL：025-765-4611 FAX：025-765-4620

E-mail：takahashi@green-pia.com

3. 2016 年度研究大会の案内

2016 年度研究大会実行委員長 岩崎 正洋

2016 年度研究大会は、本年 6 月 11～12 日に日本大学法学部三崎町キャンパスで開催されます。今回は、研究大会として 20 回目にあたる記念すべき大会となります。そのような貴重な機会に実行委員会として関わらせていただけることを、大変にありがたく、光栄に存じます。

現在、実行委員会は、増山幹高企画委員長のもとで進められている企画委員会の活動とも連携をとりつつ、大会の準備を行っております。学会のこれまでの歴史と、これからの歴史の節目となる 2016 年度研究大会が実り多い、有意義なものとなるよう、実行委員会では取り組んで参る所存です。

詳細は、5 月にお届けする大会案内をご覧ください。まずは、現時点でお伝えできる情報を以下の通りお知らせ申し上げます。学期期間中の学務多忙な時期とは存じますが、何卒、万障お繰り合わせの上、第 20 回研究大会にご出席下さいますようお願い申し上げます。6 月に三崎町キャンパスにてお会いすることを楽しみにしております。

◆研究大会実行委員会

岩崎正洋（日本大学） 岡田陽介（立教大学） 斎藤英明（洗足学園大学）
松浦淳介（慶應義塾大学） 柳瀬昇（日本大学）

◆大会会場

- ・日本大学法学部（三崎町キャンパス） 東京都千代田区三崎町 2-3-1
- ・JR 水道橋駅・都営三田線水道橋駅から徒歩 3～5 分です。あるいは、東京メトロ半蔵門線・都営三田線・新宿線の神保町駅からも徒歩 10～15 分で会場に來ることができます。

◆懇親会会場

- ・日本大学法学部キャンパス内の会場で開催します。

◆大会案内・レジュメ集

- ・5 月のゴールデンウィーク明けに発送する予定です。

◆大会参加申込

- ・大会参加の方は、大会案内・レジュメ集の発送の際に同封致します出欠確認用の葉書にて手続きをすようをお願い致します（懇親会への出欠もそこにご回答下さい）。
- ・大会準備（セッション会場の最終決定、懇親会の人数確定・予約、名札の準備など）のため、参加予定の方については、必ず葉書の返信をお願い致します。

◆予稿集（フルペーパー）

- ・大会報告のフルペーパーは、5 月中旬に開設予定の 2016 年度研究大会実行委員会専用のホームページから事前にダウンロードして下さい（日本公共政策学会のホームページからリンクを貼る予定です）。
- ・なお、この専用ホームページは、6 月末日で閉鎖します（期間限定公開）。

◆宿泊

・会場周辺には、多数のホテル等がありますが、季節を問わず観光客が多いため、早めのご予約をお勧めします。

◆報告者等のみなさんへ

・会場には、プロジェクターとともに、パソコンも用意してありますので、報告等に際してパソコンを使用される場合には、USB 等にてデータをご御持参下さい。

・会場には、コピーや印刷等の設備はありませんので、当日配布資料がある場合には、事前に各自でご用意下さい。

4. 2016 年度研究大会のプログラムについて

☆共通テーマ：「日本公共政策学会 20 周年」

☆開催場所：日本大学

☆開催日時：2016 年 6 月 11 日(土)～6 月 12 日(日)

開催趣旨

2016年度研究大会企画委員長 増山 幹高

2016 年度日本公共政策学会研究大会は、6 月 11 日(土)・12 日(日)に東京都の日本大学にて開催されます。本大会の共通テーマは「日本公共政策学会 20 周年」です。

初日の共通論題「松下圭一と山川雄巳：政策学への貢献の視点から」は、日本公共政策学会の創設と発展に貢献された初代会長の松下圭一先生と初代事務局長で二代目会長の山川雄巳先生のお二人について、政策学への貢献を中心として検討します。人間で言えば、成人であり、先達に学ぶことによって、今後の日本公共政策学会のあり方を検討する機会としたいと考えております。

二日目の共通論題は「政策としての大学改革」です。大学改革は、高等教育のあり方や国際競争力、地方創生といった多様な争点に関わる問題であるとともに、会員各位にとっては切実な就労問題であり、学会としては政策の実践と研究をいかに架橋するののかという問題でもあります。これまで大学や教育が議論されなかったわけではありませんが、狭い意味での教育政策ではなく、政治、行政、官民の垣根を越えて、国際的な視点から大学のあり方を検討したいと考えております。

個別テーマセッションでは、企画委員会で5つのセッションを設けました。まず、企画委員会セッションⅠ「破綻自治体の再生の課題」では、昨年度の消滅自治体の問題を引き続き検討します。企画委員会セッションⅡ「票の平等の政策論：経済学と規範理論の対話」では、定数不均衡について、単に最大と最小の比率のみを問題とする議論を越えて、経済学的、規範論的な検討を試みます。また、本年度も公共政策教育に関連する企画委員会セッションⅢ「政策系学部・大学院のカリキュラムを考える」を継続します。二日目には、エネルギー問題の新たな展開を多角的に検討する企画委員会セッションⅣ「環境・エネルギー政策」、デモや集会による民意の反映のあり方を検討する企画委員会セッションⅤ「日本政治とカウンターデモクラシー」を予定しております。

例年のように報告公募を行いましたところ、多数の応募がありました。若手報告では、「統制」「情報」「環境」「財政」「規範」の5つのセッションを初日の午前に予定しております。セッションとしての公募がございました「災害復興とローカル・ガバナンスー国際比較の視点からー」「民主主義の政策過程における政策分析の役割・理論・手法」に加えて、「参加」「防災システム」「住民運動」「政策形成」「外交・通商」「政策研究の新展開」の6つの自由公募セッションも予定しております。

本年度は日本公共政策学会の20周年を記念する研究大会であり、日本の政策学の発展のために活発な議論を繰り広げられることを期待しております。

以上

第 1 日 目 2016 年 6 月 11 日 (土)

9:30	受付開始				
時間	区分	分類・司会	報告者	テーマ	
9:45 ～ 11:15 若手報告セッション	若手報告Ⅰ	統制 司会：調整中 討論者：調整中	小林 悠太 (大阪大学)	内閣府による「基本法」を用いた行政統制の研究	
			田畑 琢己 (法政大学)	景観裁判における裁量統制－公共事業裁判の研究	
	若手報告Ⅱ	情報 司会：岡本 哲和 討論者：調整中	中嶋 学 (ニューヨーク州立大学アルバニー校)	協働型ネットワークにおける業績情報の学習のための活用：探索 (exploration) か、活用 (exploitation) か、あるいは両方か？	
			河 昇彬 (神戸大学)	初期電子政府化政策の政治過程－電子政府化アイディアの変容と橋本行政改革－	
	若手報告Ⅲ	環境 司会：青木 一益 討論者：調整中	早川 有紀 (東京大学)	家電リサイクル規制政策の日欧比較分析	
			塩野 眞美 (龍谷大学)	水資源管理のあり方について－かんがい用水における共同管理体制と価格インセンティブとの関係性から－	
	若手報告Ⅳ	財政 司会：調整中 討論者：調整中	間中 健介 (内閣官房・関西学院大学)	公的サービスの民間開放推進への考察～民活による新市場創出への政策的課題～	
			入江 政昭 (福岡市・エールズ大学)	我が国の行財政黒字を目指す i-PVM (impact Public Value Management) の導入について	
	若手報告Ⅴ	規範 司会：調整中 討論者：調整中	坂井 亮太 (早稲田大学)	公共政策規範における統一理論の不可能性についての社会選択理論的考察	
			玉井 良尚 (立命館大学)	人道規範と「ダムの軍事化」	
	11:30 ～ 11:50	総会 I			
	12:00 ～ 12:50	理事会			

個別テーマセッション I	企画委員会 セッション I	司会：佐藤 克廣 (北海学園大学)	破綻自治体の再生の課題	
			鈴木 直道 (夕張市)	財政破綻10年の成果と課題
			瀬戸口 剛 (北海道大学)	人口激減都市のコンパクトシティ政策の実践手法と課題
			西村 宣彦 (北海学園大学)	自治体財政健全化とミニマム論の再検討
			討論者：宮崎 伸光 (法政大学) 金井 利之 (東京大学)	
	企画委員会 セッション II	司会：名取 良太 (関西大学)	票の平等の政策論：経済学と規範理論の対話	
			和田 淳一郎 (横浜市立大学)	一票の平等：経済学あるいは方法論的個人主義の貫徹
			瀧川 裕英 (立教大学)	票の平等に規範的根拠はあるか——票配分原理の探究
			宇佐美 誠 (京都大学)	一票の格差はなぜ問題なのか：政治参加の価値論の試み
			討論者：須賀 晃一 (早稲田大学)	
	企画委員会 セッション III	司会：調整中	政策系学部・大学院のカリキュラムを考える 4	
			報告者・討論者：調整中	
	自由公募 セッション I	司会：新川 達郎 (同志社大学)	災害復興とローカル・ガバナンス—国際比較の視点から—	
			金川 幸司 (静岡県立大学)	バンダ・アチェの被災集落における高台移転と生活復興
			今井 良広 (兵庫県)	タミル・ナーデュ州の被災集落における自助グループの形成と生活復興
			高田 篤 (東北圏地域づくりコンソーシアム)	南三陸町における新たな地域組織の展開とコミュニティの変容
			討論者：後 房雄 (名古屋大学)	
	自由公募 セッション II	司会：調整中	参加	
			河井 孝仁 (東海大学)	シティプロモーション評価にむけた地域参画総量指標の可能性
米山 知宏 (早稲田大学)			オープンガバメント時代の社会参加モデル	
岩田 崇 (株式会社ハンマーバード・慶應義塾大学)			自治体PRM「Policy Relationship Management」による栃木県塩谷町『塩谷町民全員会議』の実施と効果	
		討論者：調整中		

<p>15 : 15 ～ 17 : 15</p>	<p>共通論題 I 司会：森脇 俊雅 (関西学院大学)</p>	<p>20周年記念セッション 「松下圭一と山川雄巳：政策学への貢献の視点から」 報告：横須賀 徹 (常磐大学) 岡本 哲和 (関西大学) 討論：足立 幸男 (京都産業大学) 飯尾 潤 (政策研究大学院大学)</p>
<p>17 : 30 ～ 17 : 50</p>	<p>総会 II</p>	
<p>18 : 00 ～ 18 : 20</p>	<p>学会賞授賞式</p>	
<p>18 : 30 ～ 20 : 30</p>	<p>懇親会</p>	

第2日目 2016年6月12日(日)

9:30	受付開始			
時間	区分	分類・司会	報告者	テーマ
9:45 ~ 11:45 個別 テ マ セ ッ シ ョ ン Ⅱ	自由 セ ッ シ ョ ン Ⅲ 募	司会:調整中	防災システム	
			清水 美香 (京都大学)	複合連鎖災害リスクに対応する社会の仕組み創 り:日米比較
			寺迫 剛(行政管 理 研究 センタ ー・早稲田大学)	1000年に一度の大震災と400年に一度の大洪水
			討論者:調整中	
	自由 セ ッ シ ョ ン Ⅳ 募	司会:調整中	住民運動	
			上野 眞也 (熊本大学)	水俣病問題における政策失敗のメカニズム
			山田(岩間) 千 絵 (元・筑波大学)	東京都における美濃部-鈴木都政時代の36(さぶ ろく)道路事業を事例とした比較・協働史-制度と 政策の安定性と可変性の観点からの基礎的研究-
			焦 従勉 (京都産業大学)	ダム事業をめぐる中国の環境ジレンマ-怒江ダムを 事例に-
			討論者:調整中	
	自由 セ ッ シ ョ ン Ⅴ 募	司会:調整中	政策形成	
			勝田 美穂 (岐阜経済大学)	風営法改正(ダンス規制緩和)の立法過程-多元 主義アプローチによる分析-
			野村 陽子 (京都橘大学)	介護福祉士及び看護師の法改正から高齢社会におけ る資格制度変革を考える
			長谷川 武三 (慶應義塾大学)	地方政府の政策変容の過程分析 -青森県を事例と して
			討論者:調整中	
	自由 セ ッ シ ョ ン Ⅵ 募	司会:調整中	外交・通商	
			河野瀬 純子 (安全保障貿易情 報センター)	防衛装備移転三原則と輸出管理政策-なぜ政策上の 誤謬は生まれたか-
玉井 雅隆 (立命館大学)			北極海航路と日本	
討論者:調整中				

	自由公募 セッションⅢ	司会：調整中	政策研究の新展開	
			小林 大高 (新潟薬科大学)	薬事政策における「門前薬局」の効能について かかりつけ機能は門前薬局では果たすことができないのか？
			尾鷲 瑞穂 (国立環境研究所)	APC に対する見解から見たオープンアクセス政策の現状と問題点
			討論者：調整中	
12:00 ～ 13:00	昼休み			
13:15 ～ 15:15 個別テーマセッションⅢ	企画委員会 セッションⅣ	司会：調整中	環境・エネルギー政策	
			稲澤 泉 (京都大学)	政府による発電コスト検証と長期エネルギー需給見通しの問題点
			大島 堅一 (立命館大学)	地域分散型エネルギー・システムへの移行戦略
			杉山 大志 (電力中央研究所)	COP21での合意を踏まえたわが国CO2削減策のあり方
			討論者：松原 弘直 (環境エネルギー政策研究所) 山本 隆三 (常葉大学)	
	企画委員会 セッションⅤ	司会：岩崎 正洋 (日本大学)	日本政治とカウンターデモクラシー	
			木下 健 (同志社大学)	安保法制をめぐる政治過程—国会の争点明示機能の検証
			松浦 淳介 (慶應義塾大学)	原発政策をめぐる政治過程
			山本 達也 (清泉女子大学)	カウンターデモクラシーをめぐる世界的潮流
			討論者：松田 憲忠 (青山学院大学)	
	自由公募 セッションⅢ	司会：足立 幸男 (京都産業大学)	民主主義の政策過程における政策分析の役割・理論・手法	
			足立 幸男 (京都産業大学)	政策分析方法論—その多様性と各々の意義・効用
			細野 助博 (中央大学)	
飯尾 潤 (政策研究大学院大学)			日本における政策過程の変容と政策分析:どちらにしても活用されないままなのか	
討論者：宇佐美 誠 (京都大学)				

	自由 セッションⅩ 公募	司会：調整中	災害調査	
			黒澤 之 (中央大学)	都道府県防災基本条例制定と財政指標及び人的指標との関連性に関する基礎調査
			茨木 瞬 (東北大学)	被災地における「被災者」と政策評価 —福島市民意識調査より—
			和川 央 (岩手県・岩手県立大学)	東日本大震災からの復興感と主観的生活満足度の関係
	討論者：調整中			
	自由 セッションⅪ 公募	司会：調整中	自治体の政策形成過程	
			河合 晃一 (東北大学)・ 森 道哉 (立命館大学)	都道府県—市町村の相互依存関係と権限移譲の推移——補完機能による災害廃棄物処理の過程分析
			藤川(堀畑) まなみ (九州大学)	駅は中心市街地の核に戻るのか - 中心市街地活性化計画の事業分析より -
			橋本 圭多 (同志社大学)	沖縄政策と行政——開発計画・振興予算・政策評価
	討論者：調整中			
15:30 ～ 17:30	共通論題Ⅱ 司会：調整中	<p>政策としての大学改革</p> <p>パネリスト：鈴木 寛(東京大学・慶應義塾大学) 義本 博司(文部科学省) 上山 隆大(総合科学技術・イノベーション会議) ほか</p>		

*当日教室変更の可能性もありますので、受付で配布する大会案内でご確認ください。

5. 理事会の記録(第 104 回)

日本公共政策学会 第 104 回理事会

開催日時：2016 年 1 月 9 日(土) 14 時～16 時 30 分

会場：日本大学法学部 4 号館 (第四会議室)

出席者：小澤 太郎(会長)、後 房雄(副会長)、塚原 康博(副会長)、金子 憲(事務局長)、青木 一益、
縣 公一郎、飯尾 潤、岩崎 正洋、岡本 哲和、金川 幸司、木寺 元、窪田 好男、小森 岳史、
田中 富雄、西村 宣彦、林沼 敏弘、昼間 守仁、堀 真奈美、松井 望、松田 憲忠、松元 雅和、
柳瀬 昇、和田 明子

委任欠席者：青山 崇、市川 喜崇、伊藤 久美子、稲澤 克祐、植野 一芳、上山 信一、大宮 登、
大山 耕輔、奥井 克美、金井 利之、佐野 亘、白石 克孝、土山 希美枝、徳久 恭子、
檜原 真二、西出 順郎、廣瀬 克哉、増山 幹高

報告事項

(1) 理事候補者推薦委員会

縣 公一郎 理事候補者推薦委員会委員長より、2016年1月中に、推薦委員会による理事候補者の推薦基準に基づき、次期理事の推薦候補者を確定する旨の報告がなされた。

(2) 2016 年度学会賞選考委員会

後 房雄 2016 年度学会賞選考委員長より、2015 年 12 月に発行された『会報 51 号』と学会ホームページで「研究活動報告書」と「学会賞推薦」を募っている旨の説明があった。スケジュールに関しては、前年度と同じく、2016 年 1 月 20 日(水)の締切り後、審査を開始する旨の説明がなされた。

(3) 2016 年度研究大会企画委員会

増山 幹高 2016年度研究大会企画委員長欠席のため、提出資料に基づき、小澤 太郎 会長より 20周年記念セッション、企画委員会セッション、公募セッション、若手研究者による報告申請の状況について報告がなされた。

(4) 2016 年度研究大会実行委員会

岩崎 正洋 2016年度研究大会実行委員長より、実行委員会の人選など準備状況について報告がなされた。

(5) 2015 年度年報委員会

金川 幸司 2015 年度年報委員長より、『公共政策研究』(第 15 号)の編集状況について報告がなされた。

(6) 2016 年度年報委員会

松田 憲忠 2016 年度年報委員長より、「2016 年度年報委員会」の人選、『公共政策研究』(第 16 号)の特集テーマ案などについての報告がなされた。

(7) 2016年度学術委員会

金井 利之 2016年度学術委員会委員長に代わり、金子 憲 事務局長より、2015年6月に新設された学術委員会の状況と、2016年1月19日(火)締め切りで募集を行っている『公共政策研究』(第16号)の投稿論文についての報告がなされた。

(8) 2015年度 公共政策フォーラム

林沼 敏弘 2015年度公共政策フォーラム委員長より、2015年10月17日(土)～18日(日)に北海道釧路市において開催された「公共政策フォーラム 2015 in 釧路」の報告書(釧路市役所作成)が2016年3月頃に完成予定であること、また、報告書の完成後に決算予定である旨の報告がなされた。

(9) 2016年度 公共政策フォーラム

小森 岳史 2016年度公共政策フォーラム委員長より、2016年9月24日(土)～25日(日)に新潟県津南町において開催予定の「公共政策フォーラム 2016 in 津南」の準備状況について報告がなされた。

(10) 20周年記念事業推進委員会

岡本 哲和 20周年記念事業推進委員会委員長より、20周年記念冊子『日本公共政策学会 20年の歩み(仮)』の目次・内容案についての報告がなされた。

(11) 公共政策フォーラム検討ワーキング・グループ

後 房雄 公共政策フォーラム検討ワーキング・グループ委員長より、ワーキング・グループでの議論の途中経過報告がなされた。

(12) 大学コンソーシアム京都

小澤 太郎 会長より、2015年12月6日(日)に開催された大学コンソーシアム京都「第11回 京都から発信する政策研究交流大会」の表彰式に金子 憲 事務局長が出席し、日本公共政策学会として優秀な発表者への表彰として「日本公共政策学会賞」の表彰状ならびに賞品を贈呈した旨の報告がなされた。

(13) ①『会報 51号』、②『会員名簿 2015年版』、③『公共政策研究』(第15号)の発行について

金子 憲 事務局長より、2015年12月に、①『会報 51号』、②『会員名簿 2015年版』が発行され、2点一緒に発送済みであることが報告された。また、③『公共政策研究』(第15号)は、2016年1月中旬に発送予定である旨の報告がなされた。

(14) 年会費の現状について

金子 憲 事務局長より、年会費の納入状況についての報告がなされた。年会費を3年間滞納している会員に対しては、督促状を発送した上で、2016年3月末の期限までに入金がない場合は、会則7条に基づき、2016年4月23日(土)開催の第105回理事会において退会処分とする方針を確認した。

(15) その他

縣 公一郎 理事より、国際行政学会国内委員会への参加依頼についての説明がなされた。次回以降の理事会において参加するか否か検討することとなった。

審議事項

(1) 非学会員への執筆料と査読料の支給基準規程について

金川 幸司 2015 年度年報委員長より、非学会員への執筆料と査読料の支給基準規程の内規案が提出され、審議の結果、下記の内容を決定した。

1. 特集論文の執筆について

特集論文に関しては、執筆者は会員を原則とするが、真にやむを得ない場合は、会員外に執筆を依頼することができる。その場合の執筆料は、税込み 1 万円とする。

2. 投稿論文の査読について

査読者は会員を原則とするが、真にやむを得ない場合は、会員外に依頼することができる。その場合の査読料は、1 件につき、税込み 5 千円とする。

3. 本内規は、2015 年度年報（『公共政策研究』（第 15 号））より適用する。

(2) 会員異動

入会：西巻 悦子、中原 朋哉、羅 一慶、長谷川 武三、秋山 まゆみ、中村 健人、上田 由紀子、
岡崎 沙和香、岡 和寛、松尾 拓也 以上 10 名

退会：青田 良紀、小林 誠、熊谷 太郎、茂木 康俊、水谷 文彦、李 崙碩、山崎 その、式 王美子、
山村 和宏 以上 9 名

以上の入退会の申請が承認された。

6. 関西支部大会自由論題報告、論文構想検討会報告者募集のお知らせ

第9回となります2016年度支部大会は、9月24日(土)に京都産業大学にて開催します。本年は、7月1日～29日まで、自由論題セッション(口頭報告、ポスター報告)と論文構想検討会の報告者、参加者の受付を行います。詳細につきましては、関西支部ホームページ(<http://ppsaj-k.blogspot.jp>)をご覧ください。運営委員会でプロポーザルを審査した上で、事務局より報告を依頼します。また特に優れたポスター報告については表彰を行っております。ご不明な点がございましたら、事務局(ppsaj.k@gmail.com)まで、お問い合わせください。

7. 新入会員の紹介

第104回理事会で承認された新入会員

西巻 悦子、中原 朋哉、羅 一慶、長谷川 武三、秋山 まゆみ、中村 健人、上田 由紀子、岡崎 沙和香、岡 和寛、松尾 拓也(敬称略)

以上、10名の方が新規に入会されました。

8. 理事会開催のお知らせ

第105回理事会

- ・開催日時：2016年4月23日(土)15時～
- ・会場：慶應義塾大学三田キャンパス(東館6_7階 G-SEC Lab)
〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

第106回理事会(新執行部による理事会)

- ・開催日時：2016年6月11日(土)12時～
- ・会場：日本大学法学部
〒101-8375 東京都千代田区三崎町 2-3-1

会報パスワードについて
学会ホームページに掲載されて
います会報のバックナンバーの
閲覧には以下のパスワードが必
要です。
「20ppsaj05」

日本公共政策学会 会報 第 52 号

2016 年 4 月 1 日発行

編集・発行

日本公共政策学会事務局

〒192-0397

東京都八王子市南大沢 1-1

首都大学東京 大学院社会科学研究科

金子 憲 研究室

E-mail : jimukyoku@ppsaj.jp

郵便振替口座 : 01090-2-44655 日本公共政策学会

学会ホームページ : <http://www.ppsaj.jp/>

PPSAJ Newsletter No.52 April 2016

Copyright 2016 Public Policy Studies Association, Japan

